

平成29年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、	自主性・自立性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる地域のリーダーとなる人材を育成する。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>平成28年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部 ○学習意欲や検定への意欲の高い生徒に対する課外や補習等の充実が図れた。 ○授業公開を行い、他教科の授業もお互いに観察し合い、指導向上や効果的指導の参考とすることができた。 ○課題の提出状況や成績のふるわない生徒に対して、長期休業時や放課後を利用して、補習等が行われた。 ○審査心得の再確認ができた。 ○ボランティアは、地域の要望に応え、協働的に活動することができた。</p> <p>【次年度への課題】 ○生徒の実態に即し、分かりやすい授業の工夫と、教員の指導力向上に向けて公開授業を有効に活用する。 ○学習意欲の低い生徒に対する長期的・継続的指導を行う。 ○継続的に内規の問題点について検討する。 ○生徒の実態や本校の特性に合わせた教育課程の編成を考える。 ○ボランティア活動で学んだ内容を生徒同士がフィードバックできるように道徳の授業を有効活用する。</p>	<p>生徒の学力向上を図る。</p> <p>内規の検討を行う。</p> <p>情報の適切な保護・管理と、HPでの教育活動の公表に努める。</p> <p>道徳及び道徳プラスの効果的学習を行う。</p> <p>安定的な定員確保に向けた商業教育の実施。</p>	<p>授業の工夫改善を行い、主体的・対話的で自ら学ぶことによる、分かる授業を展開させる。</p> <p>本校の現状を踏まえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。</p> <p>ガイドラインの作成と、それに沿った情報の運営・管理を行う。</p> <p>協働的な学びを通し、生徒の自己有用感・達成感を味わわせる授業を展開させる。</p> <p>地域と連携し協働的な教育活動を行う。体験入学、出前授業の更なる充実と、学校公開や中学校訪問、HP等でのPR活動を積極的に行う。</p>	
<p>進路指導部 ○キャリアアガイダンス等の行事や面接・課外等の指導が生徒の進路希望を踏まえた適切な内容であった。 ○進路決定率は、進学・就職ともに100%を達成した。 ○求人については、企業訪問を実施し、好求人であったこともあり、前年度以上の求人を確保することができた。 ○インターンシップについては、22事業所において59人が体験を行った。生徒にとって貴重な体験となった。</p> <p>【次年度への課題】 ○求人受付をスムーズに行う体制作り。○早期に生徒が就職準備に取りかかれるように、就職選考の時期やあり方の見直しを検討する。○必要に応じ、学年間の引き継ぎを行う。</p>	<p>進路指導の充実を図る。</p>	<p>進路希望達成100%を目標に、生徒の発達段階や個に応じた適切なキャリア教育を実施する。</p> <p>企業訪問を行い、求人の確保及び開拓を推進する。またインターンシップ等の活動を通し、地域との協働から就労意義の啓発を図ると共に、自己有用感や達成感を持たせ、将来の選択の幅を豊かにする。</p>	
<p>生徒指導部 ○朝の立哨指導で挨拶の励行指導を行った。○遅刻防止強化月間を設け、ある程度遅刻者数を減らすことができた。○毎日の巡回指導を実施できた。 ○外部からの苦情や、問題行動に対して、生徒集会を開き注意喚起できた。 ○計画的なカウンセリングが実施できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○全学年で遅刻カードを活用するよう共通理解を図る。○毎日の巡回指導をしても、校内での器物破損や喫煙が目立った。問題行動の未然防止のために、LHRや道徳等を有効活用し、過去にあった事例等を取り上げ、「何をしてはいけないのか」「問題行動を取るとどうなるのか」等を指導する。○無断遅刻者に関しては、朝のSHR後、保護者に連絡を入れて迅速に対応し、保護者と連携して基本的生活習慣の確立を図るようにする。</p>	<p>生徒指導の充実を図る。</p>	<p>挨拶・身だしなみ・遅刻、欠席等基本的生活習慣を身に付けさせるために、教員の共通理解のもと、きめ細やかな厳しい指導を行う。</p> <p>朝の立哨指導、校内巡回を通し、生徒の小さな変化に気を配り、問題行動やいじめの未然防止に努める。</p> <p>教員とスクールカウンセラー、家庭が連携し、効果的な教育相談の充実を図る。</p> <p>集会やLHR等を通し、起こりうる問題への対処方法や、未然防止策を考えさせ、自主的に安全を守る能力を育成する。</p>	
<p>特活部 ○円滑な学校行事運営を実現できた。 ○文化祭実行委員の中から企画委員を募り、早い段階から生徒間で十分な協議ができた。 ○各部活動の入部者を増やす具体的努力が不十分であった。</p> <p>【次年度への課題】 ○体育祭では、競技の安全性を再考し、前回の反省を活かした運営を心がける。 ○クラスマッチについては、種目の再考と教員の係分担の見直しを図る。 ○学校行事の運営については、生徒間の協議を一層活性化させる。 ○野球応援の練習方法の見直しと一般生徒への事前指導を行う。</p>	<p>特別教育活動の活性化を図る</p>	<p>・部活動、体育祭等の学校行事の充実と努め、生徒の主体的参加を促し、達成感や自己有用感を持たせる。</p> <p>・委員会等の特別活動や生徒会活動の活性化に努め、生徒が自ら考え行動する機会を増やす。</p>	
<p>環境整備部 ○ワックス塗布やモップ交換等計画通り実施できた。 ○清掃については概ねよくできた。○学期ごとの目標設定、環境衛生面での意識向上は不十分であった。</p> <p>【次年度への課題】 ○環境衛生面での意識向上を図り、スローガンを掲げる等工夫改善する。 ○教室の美化について、洗剤等を工夫し改善に取り組む。</p>	<p>ビジネスマナーの修得に務める</p> <p>コミュニケーション能力の育成を図る</p>	<p>・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。</p> <p>・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。</p>	
<p>図書部 ○昨年度は、水害で図書購入できなかった。しかし、今年度は順調に購入できた。 ○図書の無断持ち出しがないように徹底したい。 ○図書だより予定どおり発行できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○新刊本を購入して、今後も生徒の読書の興味関心を高めたい。○図書の無断持ち出しを防止する。 ○図書室の利用率を高める方法を考える。</p>		<p>・様々な授業や日常生活のあらゆる場面を通じた挨拶の励行とビジネスマナーの徹底</p>	
<p>渉外部 ○PTA総会の出席率は昨年同様43%であった。 ○PTA支部研修会はかつては全支部で行われていたが、最近では5支部になっている。また支部会費の徴収は各支部独自で行っているはずだが、どうしても学校側が悪口になりがちであった。 ○PTA研修視察旅行は好評で、バス1台分ではまかないきれなくなっている。</p> <p>【次年度への課題】 ○体育館の改修工事が終わったので次年度はPTA総会日程を、例年通り5月に第二土曜日に実施したい。 ○PTA支部研修会での保護者や教員の負担が多い場合は実施についての見直しが必要である。 ○PTA研修視察旅行のバスを2台に増やしたい。○広報誌「鬼怒」の原稿依頼を紙ベースから合理的な方法に改める。○スクールバスの代値上げについて、消費税10%になった際の見直しが必要。</p>			
<p>保健衛生部 ○保健室の利用者が昨年度よりも減少した。 ○検診後の再検査など個別指導を行い、健康の保持増進に努めることができた。 ○ピアエデュケーションを取り入れた性教育講座を実施できた。○避難訓練を滞りなく実施できた。 ○ストーブの使用者講習会を開き防火安全指導を行った。○水質・環境検査を予定通り実施できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○安全計画・保健計画・危機管理マニュアル・避難訓練・各種検査等の実施計画の作成を行う。 ○エアコン・ストーブの使用について、教員間の更なる共通理解を図り、適切に使用できるようにする。</p>	<p>安心・安全な学校づくりの推進</p>	<p>・心身ともに健康な生徒を育成する。</p> <p>・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。</p> <p>・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。</p>	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
国語	授業に意欲的に取り組む態度を育てる。	ノートや課題集等を学期毎に(年間3回以上)点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。		
	言語活動とおし、主体的・対話的な学びのある授業になるよう工夫し、場に応じた適切な表現力を身につける。	授業時間の冒頭にスピーチを行い、相手が理解できるように話し方や非言語分野を工夫することで、コミュニケーション能力の向上を図る。 俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、書くことをとおして相手に伝える表現力を育てる。		
	家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。	定期考査に向けて宿題を課したり、長期休業中(夏、冬)に課題集等を必修の宿題とするなどし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。		
	漢字検定受験者に対し、合格を目指した対策を行う。	宿題を課したり課外授業を実施するなどし、合格者増を目指す。		
社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。 発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。		
	教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの指導(点検)等、きめ細かい指導を行う。		
	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの例題を通し、体験的に理解できるように工夫する。 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。 各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。		
理科	基礎的な学習の向上を図る。	生徒とのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外を実施する。		
	科学に対する意識・関心を高め、科学的思考力を身につける。	身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。		
	物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、教室内の授業以外に実験室・屋外を利用して実験・実習を行う。		
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体作り運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を55%を目指す。		
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率90%以上を目指す。		
	体育的学級行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	クラスマッチ、体育祭の種目などのルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。		
	よりよい体育授業の実践を図る。	実技研修会等を活用し、体育科全員にフィードバックすることで授業内容の充実を図る。		
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。		
英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力強化を目指す。 課題や学習ノート提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。		
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。		
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声教材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。 ペアワーク・グループワーク・パフォーマンステスト等を実施し、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。		
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。 プリント・ワークの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。 実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。		
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。		
	学力の向上を図る。	学力向上のために日々の授業を大切にし、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。 科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。		
	商業教育の広報活動に努める。	商業教育の理解を深め、地域と連携した商業教育の推進を図るため体験入学や出前授業を実施する。		
商業	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教務	生徒の学力向上を図る。	授業を工夫改善し、主体的・対話的で自ら考え学ぶことによる、分かる授業を展開させる。 教員の指導力向上のために、授業の相互参観期間を設け、校内外研修の機会を活用する。		
	教育課程の編成に努める。	専門分野の知識やビジネス活動体験を通し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。		
	学業不振の転退学者の減少に努める。	成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と、補習や課外を計画的に行う。		
	内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。		
	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。		
	情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。		
	HPの適正な運営と、教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成と、それに沿ったコンテンツ委員会の活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。		
	道徳及び道徳プラスでの協働的学びを通し、課題の発見及び解決策を導く力を身に付けさせる。	生徒が自己有用感・達成感を味わえるような学習内容を展開する。		
生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。		
	服装・頭髪について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。		
	遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。		
	交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。		
	問題行動を未然に防ぐ	全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。		
	教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。		
特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。		
	部活動加入率50%以上と、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
	クラスマッチ、体育祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
進路指導	キャリア指導の充実を努める。	生徒の個性に応じ、適切なキャリア教育を実施する。 進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 教員間の連携をはかり、進路未決定者に対するきめ細やかな指導を行う。		
	キャリアガイダンスの充実を努める。	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談、またキャリアデザインに関する指導などを適宜積極的に行う。		
	求人確保及び開拓に努める。	企業訪問を行い、求人確保及び開拓を推進する。		
	職業意識の啓発に努める。	就業体験(インターンシップ)など様々な活動とおとして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。		
環境整備	率先して清掃を行い、環境美化意識の向上を図る。	教室のワックスかけ、モップ交換を年4回実施し、教室の美化に努める意識、態度の育成を図る。		
	今年度の重点目標を掲げて、より一層環境美化の意識を高める。	各清掃区域の清掃を実施し、生徒の美化意識の向上を図り、教員と生徒の信頼関係を構築する。 トイレは、特別棟(フローリング)、本館(タイル)と形態は違うものの洗剤、用具等を工夫して美化に努める。		
	環境問題を身近なもの意識し、公共心や奉仕の心を育む。	校周辺の空き缶・空き瓶・ゴミ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせ、奉仕の心を育成する		
保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。 諸検診の効果的な実施に努める。 専門家による性教育を実施する。		
	学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練やAED講習会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。		
	学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。		
		水質検査および室内環境検査等を実施する。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	図書	生徒の読書センターや情報センターとして図書室環境を整備し、学習活動を支援したり、情報収集・選択・活用能力を育成する。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすい装飾にも努め、図書室を利用しやすい環境に努める。 図書館資料を整理し、蔵書のデータベース化を図り、貸出し返却手続等を迅速に行えるよう努める。		
		読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。 新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行う。 生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。 生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対す関心を高める。		
		PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	PTA総会や授業参観への出席率が昨年度の43%以上になるよう工夫をする。 学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。 会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。 PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。		
		鬼朋同窓会の組織強化に努める。	副会長、常任理事の増員を検討する。		
		スクールバスの円滑な運行をはかる。また、来年度予想される消費税増税への対応を検討する。	スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。		
	一学年	元気で明るいあいさつをさせる。	教員側から率先してあいさつをする。いつでもどこでも何度でもあいさつをする。また、授業、集会等での一言挨拶も継続的に指導する。		
	時間厳守の意識を定着させる。	朝のショートホームルームのチャイムと同時に着席して待つ習慣をつける。 移動教室、集会、行事等での5分前行動を定着させる。			
	校則を守らせる。	生徒に服装・頭髪・申請等々、各校則の理解をさせる。違反にはスタッフ全員で継続的に指導する。			
	そうじの徹底をさせる。	携帯電話は持たせない。各自が目的意識と達成感が持てるような工夫をする。			
	進路指導の充実をはかり、学習意欲の向上を図る。	進路ガイダンスの実施、体験ツアー、外部講師を活用する。進路の意識を高めて、日頃の学習活動につなげる。			
学 年	二 学 年	進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める。	インターシップやオープンキャンパスへ自主的に参加するよう促す。外部講師のもとで面接指導を年5回以上実施する。		
		授業環境の質の向上に努める。	チャイムで始まりチャイムで終わることを意識づける。正しい挨拶や身だしなみ、移動教室等では携帯電話は所持しないを徹底する。授業中の私語はゼロにする。		
		情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させる。	各種検定試験の合格率80%を実現する。商業科においても50%を実現する。		
		部活動での主体的活動を担う。	部活動加入率40%を維持し、学校のPR活動にも貢献する。		
		モラルを重んじ、規則を守るよう啓発していく。	鬼怒商生であることに「プライド」を持たせ、学校の「イブ」をくずさぬよう節度ある行動を取らせる。特別指導を年間一ケタとするために、家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず学年一丸となって早期発見・早期解決に努める。		
	三 学 年	一人一人が希望する進路を実現させる。	・進路ガイダンスや個人面談をふまえ、保護者との連携を密にして双方の納得のいく進路を実現させる。 ・進路（就職・進学）実現のためのスキルを身につけさせる（※面接力・基礎学力等）		
	社会に出ても恥ずかしくない基本的な生活とマナーを身につける。	・欠席、遅刻、早退等を極力しないよう努力させると同時に家庭との連携を密にする。 ・時間を守る習慣や挨拶・正しい言葉遣い・高校生らしい服装頭髪等のマナーを励行させる。			
	授業環境の向上と生徒全員の卒業を実現させる。	・チャイムでの着席の励行とケータイ・スマホの授業開始時前の提出の徹底。 ・授業中の私語や居眠り等をなくす指導を粘り強く行う。			
	資格取得に自主的・積極的に取り組ませる。	・3学年で取得すべき資格について、最後までチャレンジする意識を盛り上げ支援する。			
	情報ビジネス科の特長を生かした高度資格取得の目標を達成させる。	・各種検定試験の合格者80%を目標とする。 ・高度資格取得（日商簿記3級以上、ITパスポート等）へのチャレンジ。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分